僕は漢字を書くのが大嫌いだ。

「なんで書き順なんてあるんだ。止め、はらいなんてどうでもいいじゃないか」とブツブツ言いながら漢字の練習をしている。

しかし、白川文字学の本を見るのは好きである。時に柔かく、時には勇ましく、時には残こくに思える字もあるが、とても神秘的だ。

酒だるを両手でささげもつ尊、神様に何を願ったのだろう。書くのは難しいが裁の十画目の長くななめに書く所が何ともかっこいい。

何だか少しワルっぽく感じる紅の字も好きだ。王に従わないものを攻めうつ討もまた強さや厳しさを感じ、寸の所を書く時は、気持ちがすっきりする。

改めて好きな漢字を書き順通りに書いてみる。案外気持ちの良いものだ。漢字はアート。伝えようとする力も宿る。いいじゃないか。

さあ、書くとするか！。

20×20